

コロンボ日本人学校



研究報告会の記録



1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～



目次

- ① 研究報告のスライド
- ② 講評のスライド
- ③ パネルディスカッション及び講評の記録
- ④ 事後アンケートより



「光り輝く島」スリランカにある日本人学校



コロンボ日本人学校

Japanese School in Colombo

+94-11-2669620

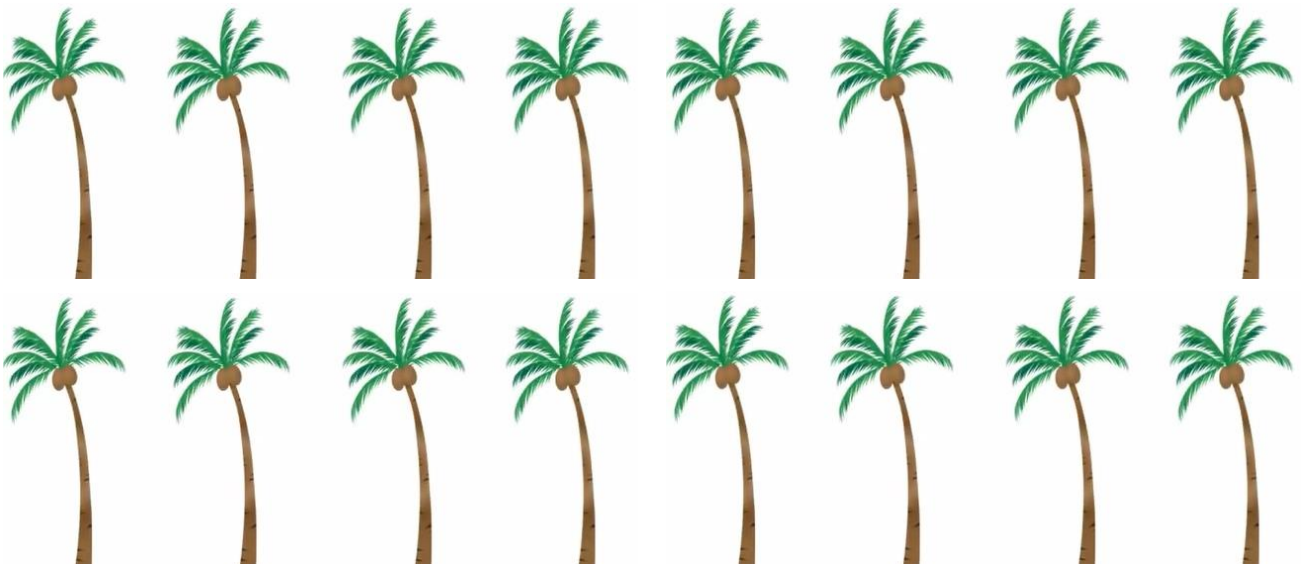
<http://srilanka.jscol.com/>



1人1台のiPadを活用した表現力の育成 ～Grow Up Time で思いを120%形に～



1 研究報告（スライド）



1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～



「光り輝く島」スリランカにある日本人学校
コロombo日本人学校 Japanese School in Colombo
 +94-11-2669620 <http://srilanka.jscol.com/>

1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～

- ① 本校の概要・ICT環境
- ① 研究計画について
- ② Grow Up Timeについて
- ③ 他校との交流について
- ④ 各教科での取り組み
- ⑤ 研究のポイント
- ⑥ 成果と課題

1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～

①本校の概要



位置及び本校の児童生徒数の推移

- ・スリランカの最大都市コロomboにある日本人学校
- ・2019年テロ、2020年～コロナにより児童生徒が減少

- ・2020年3月 13名
- ・**2021年4月 2名**



本校の児童生徒数の推移

- ・2021年 4月 2名
- ・2021年 5月 4名
- ・2021年 9月 7名
- ・2021年11月 9名
- ・**2022年 1月 10名**

本校在籍児童生徒数 2022年1月27日現在	
小学部 1年	2名
小学部 2年	1名
小学部 3年	1名
小学部 4年	3名
小学部 5年	2名
小学部 6年	
中学部 1年	
中学部 2年	1名
中学部 3年	
合計	10名

1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～

①ICT環境

ICT環境

2020年4月まで	・デスクトップパソコン8台（コンピュータ室） ・テレビ2台 ・wifi（1階：ファイバー 2階：ADSL）
2020年 8月	・wifi工事 2階もファイバーになり、全教室wifi整備完了
2020年12月	・iPad16台整備完了（児童生使用10台、教員用6台）→1月より使用開始
2021年 5月	・大型テレビ購入
2021年 8月	・AppleTV、iPadアクセサリ等の購入 ・ノートパソコン、ビデオカメラ、スピーカーフォン等の購入

2020年度 令和2年度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
21 小学生 開校式		17 学級開 始式	17 終業式		2 始業式 27 終業式 27 日中 共進運動会	27 終業式 臨時休校 お休みの日		9 学級開 始式 12 区 17 終業式	4 始業式 臨時休校 お休みの日	24 小学生 開校式	5 卒業式 12 終了式

2021年度 令和3年度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
15 始業式	14 終業式 臨時休校 お休みの日		12 学級開 始式 16 終業式		1 始業式 臨時休校 お休みの日	18 学級開 始式 28 交流会	9 交流会 26 交流会	4 区 17 終業式	4 始業式 臨時休校 お休みの日 26-27 習字学習 29 学級開 始式		12 終了式

オンライン授業

2020年 3月	G Suite for Education(現Google Workspace for Education)のアカウントを取得、Google ClassroomとZOOMを活用したオンライン授業の準備スタート。
2020年 4月21日～ 6月16日	・臨時休校、オンライン授業
2020年 10月27日～ 12月8日	・臨時休校、オンライン授業
2021年 1月 4日～ 1月24日	・臨時休校、オンライン授業 iPad貸与・家庭での使用可
2021年 5月14日～ 7月11日	・臨時休校、オンライン授業
2021年 9月 1日～ 10月17日	・臨時休校、オンライン授業

オンライン授業

- ・ Google ClassroomもZOOMも、みんな初めて。
- ・ 外出禁止令中、各教員は自宅から、黒板代わりに紙やラップを使って…
- ・ はじめは国算社理のみ
→徐々に全校朝会、Grow Up Time（表現）、EC（英会話）、CTE（英語）
児童生徒会活動、実技教科まで →1日6コマ 面談等もZOOM対応に。
- ・ 資料の共有、共有した資料にライン、マーク、画面をスクリーンショット
- ・ ZOOMのホワイトボード機能やブレイクアウトルーム機能
- ・ Google Classroomも、はじめは資料の提示のみ
- ・ 課題の提示、回収、採点
- ・ 子供と一緒に学ぶ&職員研修→教員のスキルアップ！



1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～

①研究計画について

研究主題

1人1台のiPadを活用した表現力の育成

～Grow Up Time で思いを120%形に～

児童生徒の実態

- ・あがってしまう
- ・自信がもてず、堂々と話せない

日本人学校（在外教育施設）として

- ・グローバル人材の育成

今日的教育課題

- ・情報活用能力の育成
- ・各教科等の指導におけるICT活用の推進
- ・校務のICT化
（業務負担軽減、教育の質の向上）
- ・ICT環境整備の促進

研究の目的

- ・児童生徒の表現力を高めるためのiPadの効果的な活用法を明らかにする。

成果目標

【児童・生徒】
伝えたいことを出し切る。
 操作技能・語彙力・構成力
 創造力・度胸・自信（意欲）

成果目標

【教員】
 児童生徒の実態やその
 場面に応じた効果的な
 支援ができる。

波及効果

【教員】
 本帰国後に、それぞれの地で
 学んだことを広めていく

研究の方法・流れ

①意識調査

②実践

- ・Grow Up Time
- ・他校との交流
- ・各教科等での実践

③研究報告会（本日）

【時期】
年度初め、1学期末、2学期末、児童生徒編入時

【対象】
児童生徒、教員

【内容】
表現、Grow Up Time、ICTの操作に関わること

**プレゼンテーションを中心にして
表現力を育成していく**

発表 思いを120%形に

プレゼン資料作成能力 話し方

内容の吟味・言語化・構成の工夫

思い



温暖な気候

【環境づくり】

「晴雨っても大丈夫！」
あたたかい雰囲気づくり

「話したい」と思える
関係づくり

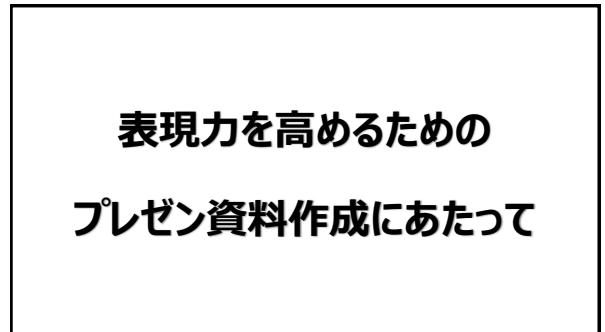
学習意欲の向上

成長を促す肥料

【プレゼンスキル】

総合的な学習の時間を
軸にした iPad の
操作スキル及び
プレゼンスキルを学ぶ学習

日々の学習活動



身に付けさせたいこと

小学部低学年	シンプル
小学部中学年	相手意識
小学部高学年 中学部	工夫

小学部低学年の目標 シンプルに

- ・情報を少なく
- ・1スライド 1メッセージ
- ・字は大きく

小学部中学年の目標 相手意識

- ・聞く人を意識した資料作り
- ・わかりやすい言葉選び

小学部高学年・中学部の目標 興味を引く工夫

- ・効果の工夫
(色・背景・アニメーション)
- ・画像や映像、音声の挿入
(視覚、聴覚に訴える)

全学年共通 見直し

- ・間違いがないか確認
- ・余計なところを削る
(ねらいに立ち返る)

今年度使用した

主なアプリケーションについて

プレゼンテーションに関わって

Keynote

- ・スライド作成
- ・ページの移り変わりに入れる効果が美しい
- ・AppleTV等でTVに映し出すのが容易

Skitch

- ・画像編集
- ・画像を文字を書き込んだり
トリミングをしたり

カメラ

- ・静止画、動画、スロー、
高速再生など
- ・プレゼンのための撮影だけでなく、
黒板やノートの撮影、ダンスや
演奏の動画撮影等

Google SpreadSheets

- ・表計算作成
- ・Grow Up Timeのふり返し
- ・職員研修ふり返し
- ・通知表の所見（コメント）交換
- ・複数人が同時に編集可

プレゼンテーション以外で

Google Classroom

- ・資料の共有
- ・学校からの連絡、やりとり
- ・課題の設定・提出

Google Drive

- ・資料の共有
- ・学校と家庭をつなぐ JSC-ALL
- ・教職員間での TEACHERS

Zoom 

- ・オンラインミーティング
- ・オンライン授業
- ・通常授業時も、共有したいものを手軽に共有できる。

Google Forms 

- ・アンケート、テスト作成
- ・登校前健康チェック
- ・交流会のふり返り
- ・学校評価アンケート
- ・宿泊学習事前調査
- ・CTEでの小テスト
- ・多様な質問ができる
- ・集計が便利

Jamboard 

- ・電子ホワイトボード
- ・付箋紙を用いたKJ法
- ・交流会の計画、分担決め
- ・校内研修
- ・思考を整理する学習
- ・ゲーム、クイズ等

Apple Classroom 

- ・児童生徒の画面を教員用iPadで把握することができる。
- ・見せたいウェブサイトや使用させたいアプリケーションを強制的に開かせることができる。
- ・iPadの使用をストップさせたい時に、操作をロックすることができる。

AirDrop (機能) 

- ・Apple製品同士
様々なデータを高速で送受信可能
- ・それぞれが作成したデータを一つに集約
- ・お互いのノートを撮影し共有
- ・見せたいウェブサイトのURLを瞬時に送信



1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～

②Grow Up Timeについて

2018年度

表現力の向上をねらいとした「発表集会」スタート
(合唱・朗読・群読)

2019年度

「発表集会」を発展させ「Grow Up Time」スタート
(合唱・ダンス・群読／個人発表)

2020年度

「Grow Up Time」2年目
(合唱・ダンス・群読／個人発表)

2021年度

「Grow Up Time」3年目
(合唱・ダンス・群読／個人発表／表現力向上のための学習)

(Keynoteを活用した) プレゼンテーション

Grow Up Time 個人発表

水曜 7時45分～8時00分

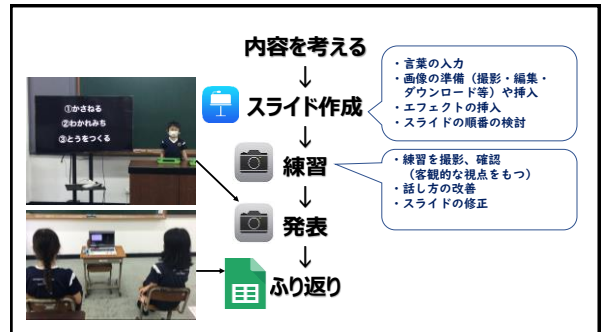
発表1→感想・質問(全員)→発表2→感想・質問(全員)

終了後、各自ふり回り

ふり回りシート(スプレッドシート)に入力

聞き手 → 聞いた感想

発表者 → 動画を見ながらふり回り

個人発表までの流れ**総合的な学習の時間(情報)及び****Grow Up Timeでの****スキルの習得****1学期 操作方法の習得**

・KeynoteやSkitchの操作方法を習得する学習

- ①文字を入力してみよう
- ②文字の大きさや色を変えてみよう
- ③写真を撮影して、編集してみよう
- ④画像をダウンロードしてみよう
- ⑤編集した画像をスライドに貼ってみよう
- ⑥エフェクトを入れてみよう

・話し方の基本



2学期 内容・話し方の工夫 感想の改善

・質問を考えてみよう

→発表後のコメントで、内容に関する感想や質問が増えた。

・「●●」と言うゲーム

→同じ言葉でも言い方が違うだけで印象が変わる。

→より伝わる話し方にする意識。

→表情の大切さも実感。

ことば	①サッカーのしあいを 獲ていて ぶっ込んで チームが点をとったとき	②テストのけっかを くばられて いい成績とれたと おもったら 0点だったとき
「おお」	③はじめてのシリーズ へのみこつで、 観のぞから シリーズが 見えたとき	④あしとががゆいと おもったら、たぐんの アジが新しい上を あるいているのを 見たとき
	⑤マクドナルドで、 とりのせきの人が 1人でメンバーを 10こたべていたのを 見たとき	

今年度全校で取り組んだ主なプレゼンテーション

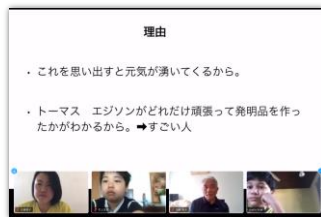
時期	活動名	テーマ
6月上旬	Grow Up Time	自己紹介
6月下旬～7月上旬	Grow Up Time	自由
7月中旬	終業式	1学期がんばったこと
9月下旬～	総合(交流会)	スリランカおよびコロナ日本人学校について(テーマを分組)
10月上旬～11月上旬	Grow Up Time	人との関わりを通して、自分が変わるきっかけとなったこと
11月上旬～	Grow Up Time	自由
11月下旬	総合(交流会)	ブラジルおよびサンパウロ日本人学校について(テーマを分組)
12月中旬	終業式	2学期がんばったこと
1月中旬	総合(宿泊学習)	宿泊学習に関して自分で決めたテーマについて
3月中旬	修了式	3学期がんばったこと

・テーマ「自己紹介」 6月2日、9日(オンライン)

全7スライド

- ①題名・名前
- ②③好きなもの1
- ④⑤好きなもの2
- ⑥⑦好きなもの3

できる限りサンプルに



成果

基本的な操作技能を身に付けることができた。

・テーマ「設定なし(自由)」 6月30日、7月6日(オンライン)

スライド指定なし

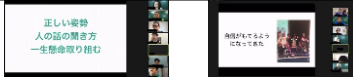
発達段階に合わせ
効果を挿入し
工夫していく

できるだけ自分の力で




成果

- ・1回目よりも質の高いスライドを作成することができた。
- ・できるだけ自分の力で作業を進めることができた。



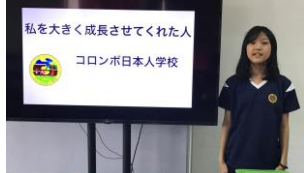

2学期1回目 10月6日～11月3日 7名
「人との関わりを通して、自分が変わるきっかけとなったこと」
 →小5児童2名、中3生徒1名の中から2名を選出し
 プレゼンコンクールに応募

2学期2回目 11月10日～ 9名
 テーマ「自由」



プレゼンコンクール最終選考

奨励賞受賞!

1人1台のiPadを活用した表現力の育成
 ～Grow Up Time で思いを120%形に～

③ 他校との交流について

日時	交流先	内容	備考
10月28日	高島町立高島小学校 6年生 (山形県)	・お互いのプレゼン ・クイズ ・質問タイム ・歌の披露	
11月9日	横浜市立旭小学校 4年生 (神奈川県)	・お互いのプレゼン ・質問タイム	・3学期に2回目を行う予定
11月26日 12月9日	恵那市立上矢作中学校 (岐阜県)	[26日] JSCのプレゼン [9日] 上矢作中学校のプレゼン	
2月9日	横浜市立旭小学校 4年生 (神奈川県)	・未定	
	イスラマバード日本人学校 (パキスタン)	・成果物の共有 ・お互いにコメントし合う	通年
	サンパウロ日本人学校 3年生 (ブラジル)	・自分たちのプレゼン、クイズ ・相手について調べたことをまとめる ・お互いにコメントし合う	11月中

④スライド作り

・Jamboardを活用し、役割分担




どこにあるの?
てんき

・それぞれが担当ページを作成→1つにまとめる。
 ・リハーサル→コメントし合う。


①高島町立高島小学校6年生（山形県）

○初めての発表 ほどよい緊張感



ふり返し（翌日）

録画した映像を見ながら、自分の発表がどうだったかをふり返った。



△質問に答えられなかった

→「もっとスリランカについて調べたい！」
質問をお互いに考える時間を設定



②横浜市立旭小学校 4年生 (神奈川県)


△ 2度目の発表 慣れ→少し緩んだ雰囲気



ふり返り (翌日)


→「チームコロナポ日本人学校」という意識
遠慮せず、名指して課題を伝え合えるように
(声の大きさ、ハキハキ、スライドの操作等)

→課題を指摘された児童生徒はその場で早速練習、修正。




③恵那市立上矢作中学校 (岐阜県)

○ 3度目の発表 中学生相手
緊張しつつも、自信をもって堂々と発表
→ 3回目なので、安定感のある発表
→ 中学生ならではの踏み込んだ質問、感想



サンパウロ日本人学校 3年生 (ブラジル)

○旭小学校の反省を生かし、全員が大きな声で
はっきりと話せるように



サンパウロ日本人学校 3年生 (ブラジル)

・相手先について調べ、まとめる活動

きほん じょう ほう1	きほん じょう ほう2	スポー ツ	イベン ト・お 祭り	たへ もの	しぜ ん・ど うぶつ	ゆうめ いなほ じよ	サンパウロ 日本人学校
じん ごう	てん ま ご	おん ご	サン バ		ア マ ツ		
こよ ば	のり もの	サ カ カー					
おや は	ほう せき						



サンパウロ日本人学校3年生 (ブラジル)

・相手先への質問

聞いてみよう！ブラジルのこと、サンパウロ日本人学校のこと

【サンパウロ日本人学校へ送る文】

●質問：1問

- 1. 質問内容を入力してください
- 2. 質問内容を入力してください
- 3. 質問内容を入力してください

●質問：2問

- 1. 質問内容を入力してください
- 2. 質問内容を入力してください

●質問：3問

- 1. 質問内容を入力してください
- 2. 質問内容を入力してください
- 3. 質問内容を入力してください

イスラマバード日本人学校中学部 (パキスタン)

・成果物交流 (間接交流)

「パキスタンでは「パスタ」が人気です。日本では「パスタ」が人気です。パキスタンでは「パスタ」が人気です。日本では「パスタ」が人気です。

「パスタ」という食品の

1人1台のiPadを活用した表現力の育成

～Grow Up Time で思いを120%形に～

④ 各教科での取り組み (一部)

各学級担任・各教科担任からの課題		
学年	教科・領域	学習活動
小学部3・4年	国語	ことわざ・慣用句クイズ作り
小学部3・4年	学級活動	プロジェクト活動
小学部3・4年	社会	学習のまとめ
小学部4年	理科	筋肉と骨について
小学部4年	理科	1年間の動植物の様子について
小学部5年	算数	速さについて
小学部5年	社会	日本の工業について
小学部5年	音楽	世界の楽器調べ
中学部2年	音楽	世界の楽器調べ





教科	学年	学習活動 (Jamboard・Google Forms)
国語	3・4年	・考えを整理する活動をJamboardで実施。
音楽	1～4年	・「動物の謝肉祭」での、曲名当てクイズをJamboardで実施。
CTE 英語	1～4年	・学習事項の定着を確認するテストをGoogle Formsで作成、実施。
IA 国際理解	全学年	・授業のふり返りのアンケートをGoogle Formsで作成、実施。

1～4年 音楽

サンサーンス どうぶつのしゃくくさい

1	2	3	4	5
はくちよう	ぞう	すいでかん	かめ	カンガルー
はくちよう	ぞう	すいでかん	カンガルー	かめ
はくちよう	ぞう	カンガルー	すいでかん	かめ
かめ	ぞう	カンガルー	すいでかん	はくちよう
かめ	ぞう	カンガルー	すいでかん	はくちよう

1～4年 CTE (英語)

「to jump」はどれですか？

いろいろはどれですか？4つえらみましょう。

「hide」はどれですか？

Answer	Percentage
Apple	4 (100%)
Banana	0 (0%)
Purple	0 (0%)
Fish	0 (0%)
Brown	0 (0%)

教科	学年	学習活動 (その他)
体育	全学年	・よさこいソーランの踊りを動画で撮影。自分自身の踊りの課題を確認。
生活	1年	・生き物や植物を観察のためのカメラの活用。
国語	1年	・質問したり、質問に答えたりする活動を動画で撮影し、それを確認しながらふり返りを実施。
社会	5年	・自動車づくりの新聞作成のための各自動車会社のウェブサイトの閲覧、情報収集。
各教科		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・慣用語、ことわざ、計算等の各種アプリの活用。 ・カメラを使っての板書の記録・活用。 ・調べ学習のための検索エンジンの利用。 ・動画の視聴。

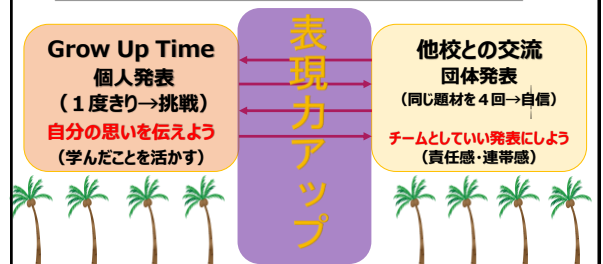
終業式



1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～

⑤ 研究のポイント

個人と集団の両輪によるプレゼンテーション



児童生徒の教え合い

・わからない子や編入したばかりの子に対して
わかる子が積極的に教える姿



定期的に行う校内研修

・まずは教員も使ってみる→慣れる



定期的に行う校内研修

・教員もプレゼン

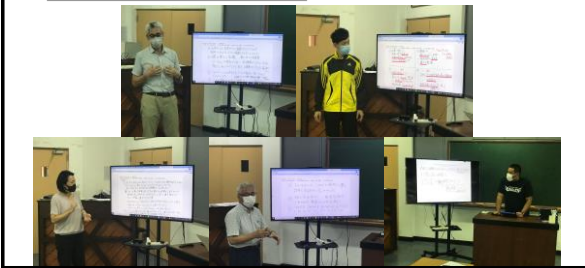


定期的に行う校内研修

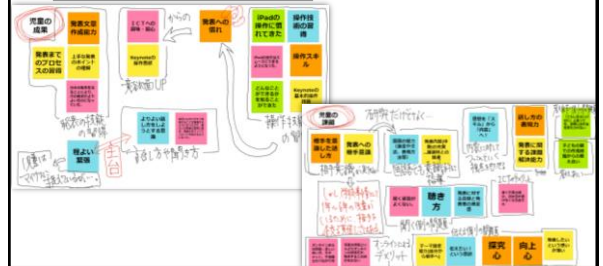
- ・座談会（困っていることを気軽に相談し合う場）
- ・成果と課題の定期的な確認

→座談会以外の時でも、フットワーク軽くいつでも教え合ったり、実践を共有し合える教員組織

定期的に行う校内研修



定期的に行う校内研修



1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～

⑥ 成果と課題

意識調査から

教員の意識調査（全3回）

	ICTを活用して授業を進めると、授業の質を高めることができる。			今、ICTを活用して授業を進めることに自信がある。			ICTを活用して授業を進めることに不安がある。			ICTを活用して児童の表現力を高めるための効果的な指導をしっかりと行うことができる。		
	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月
A	とても思う	少し思う	少し思う	少しある	とてもある	とてもある	少しある	あまりない	ない	少しある	少しある	少しある
B	少し思う	少し思う	少し思う	ない	あまりない	少しある	とてもある	少しある	少しある	あまりない	あまりない	あまりない
C	少し思う	少し思う	とても思う	とてもある	とてもある	とてもある	あまりない	あまりない	ない	あまりない	少しある	とてもある
D	とても思う	とても思う	少し思う	少しある	とてもある	少しある	あまりない	あまりない	あまりない	少しある	少しある	少しある
E	とても思う	とても思う	とても思う	あまりない	少しある	少しある	とてもある	少しある	少しある	あまりない	あまりない	少しある

教員の意識調査（全3回）

	ICTを活用して授業を進めると、授業の質を高めることができる。			今、ICTを活用して授業を進めることに自信がある。			ICTを活用して授業を進めることに不安がある。			ICTを活用して児童の表現力を高めるための効果的な指導をしっかりと行うことができる。		
	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月
B	少し思う	少し思う	少し思う	ない	あまりない	少しある	とてもある	少しある	少しある	あまりない	あまりない	あまりない

教員の意識調査（全3回）

	ICTを活用して授業を進めると、授業の質を高めることができる。			今、ICTを活用して授業を進めることに自信がある。			ICTを活用して授業を進めることに不安がある。			ICTを活用して児童の表現力を高めるための効果的な指導をしっかりと行うことができる。		
	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月
E	とても思う	とても思う	とても思う	あまりない	少しある	少しある	とてもある	少しある	少しある	あまりない	あまりない	少しある

児童生徒の意識調査①

	みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。		
	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず

児童生徒の意識調査①

	みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。		
	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず

児童生徒の意識調査①

	みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。			みんなの前ではっぴょうすることができていますか。		
	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月	4月	7月	9月
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず

児童生徒の意識調査②

みんなの前でほっぴりするときは、ほっぴりやカードを渡ってほっぴりすることができていますか。				みんなの前でほっぴりするときは、ほっぴりやカードを渡ってほっぴりすることができていますか。				もっとほっぴりしたいと思いません。				Grow Up Timeでほっぴりすることはできていますか。				iPadをつかったほっぴりができますか。			
4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

児童生徒の意識調査②

みんなの前でほっぴりするときは、ほっぴりやカードを渡ってほっぴりすることができていますか。				みんなの前でほっぴりするときは、ほっぴりやカードを渡ってほっぴりすることができていますか。				もっとほっぴりしたいと思いません。				Grow Up Timeでほっぴりすることはできていますか。				iPadをつかったほっぴりができますか。			
4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

児童生徒の意識調査②

みんなの前でほっぴりするときは、ほっぴりやカードを渡ってほっぴりすることができていますか。				みんなの前でほっぴりするときは、ほっぴりやカードを渡ってほっぴりすることができていますか。				もっとほっぴりしたいと思いません。				Grow Up Timeでほっぴりすることはできていますか。				iPadをつかったほっぴりができますか。			
4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月	4月	7月	9月	12月
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

発表することが上手になったと思う理由は何ですか。(7人・選択式・その他あり)

Grow Up Timeで発表したから。	5
交流会で発表したから。	5
先生からのアドバイスがあったから。	4

他に上手になったと思うところを選びましょう。(7人・選択式・その他あり)

話す内容や話す順番を考えながら話すこと。	5
絵や写真を見せながら話すこと。	4
相手に合った言葉を選びながら話すこと。	4

Grow Up Timeは好きですか。(7人)

好き	少し好き	あまり好きではない	好きではない
4	3	0	0

その理由を教えてください。(記述式・7人)

- 自分の発表を聞いてもらうのが好きだから。(2人)
- たくさん発表してきたからはじめよりも自分に自信が持てるようになった。
- GUTで発表すると、みんなの前で緊張せず発表ができるからです。

スライドを作る時に大切だと思うことは何ですか。(記述式・6人)

- スライドの字をできるだけ減らして、字を大きく見やすくすること。
- 写真と文字を大きくすること。文字の色をバックグラウンドの色によって変えること。

Grow Up Time や交流会のプレゼンテーションでできるようになったことや初めて分かったことについて書きましょう。(記述式・5人)

- ・発表をすると、自分がレベルアップしたような感じがして、自分に自信がもてる。
- ・ゆっくりと話すことができるようになった。
- ・字がたくさん書いてあると読みづらいということ。
- ・原稿を見ずに大きな声で発表することができるようになった。

児童生徒のICTの操作技能が向上したと思う。(5人)

とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
5	0	0	0

具体的にどのような技能が向上したと思うか、教えてください。(記述式・5人)

- ・児童は他の人の手を借りずに画像の検索・ダウンロードや、スライドの作成、調べたいことの検索ができるようになった
- ・keynoteを使ったプレゼン資料の作成と発表の技能が向上している。
- ・子供たちは、順応性が高く、iPadの操作もすぐに飲み込み、さらに自分で使い方を学んで身につけている。

児童生徒の表現力が向上したと思う。(5人)

とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
4	1	0	0

具体的にどのような変化が見られたか、教えてください。(記述式・5人)

- ・声の大きさや話す速さなどの話し方が向上したと思う。
- ・効果を自在に操ることができるようになった。
- ・効果を多用しすぎず、適度に使うことができる児童生徒も増えてきた。
- ・話し方や、見せるタイミングを自分で考えながらできるようになった。
- ・相手にわかりやすくしようとする努力が見られるようになったこと、臆せず堂々と発表できるようになったこと。
- ・内容面についてはまだまだ課題がある。実体験が少ないため、内容に深みがなく、説得力に欠けるところがある。

本研究の成果

児童生徒

- ・話し方の向上
- ・Keynoteをはじめとする様々なiPadのアプリケーション操作技能の向上
- ・表現力をさらに高めようとする意識の芽生え
- ・ICTを活用した学習活動に対する意欲の向上
- ・共に高め合う意識の芽生え

教員

- ・Keynoteをはじめとする様々なiPadのアプリケーション操作技能の向上
- ・ICTを活用した授業に対する自信の高まり
(不安の軽減)

今後に向けて（課題）

児童生徒

- ・内容面の充実
さらなる言葉や語彙の習得。
実体験やインタビューを通して、より説得力のある表現に。
- ・必要な情報を収集、厳選する力。
- ・発表を分析、批評する力。
- ・その場で臨機応変に対応する力。

教員（学校）

- ・児童生徒の表現力をさらに高めていくために…
- ・カリキュラムの工夫
- ・端末やアプリの操作法の学習の継続（校内研修の継続）
- ・指導法、活用法の研究（指導・助言）の継続
- ・教員のプレゼン能力の向上
- ・ICTを使用中の急な事態への対応
- ・編入者及び新派遣教員へのフォロー
- ・人数が増えた場合の対応



1人1台のiPadを活用した表現力の育成
～Grow Up Time で思いを120%形に～



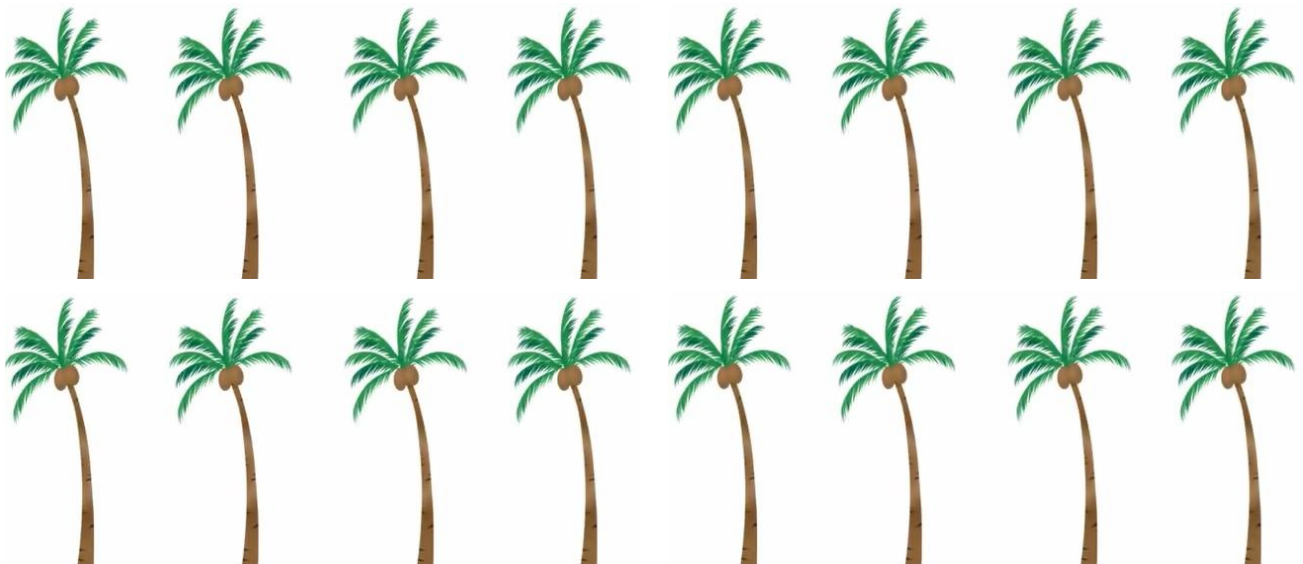
「光り輝く島」スリランカにある日本人学校
コロombo日本人学校 Japanese School in Colombo
 +94-11-2669620 <http://srilanka.jscol.com/>

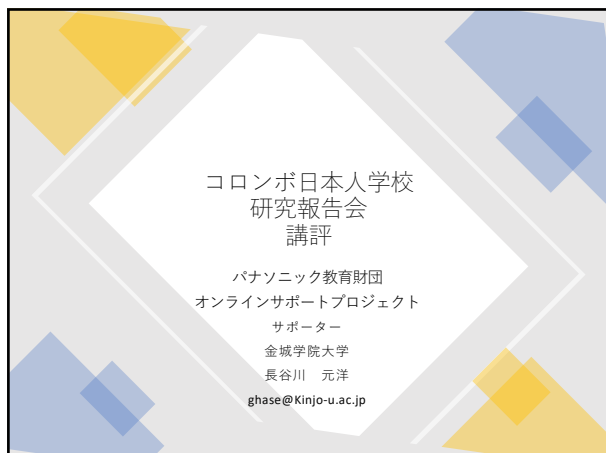


1人1台のiPadを活用した表現力の育成 ～Grow Up Time で思いを120%形に～

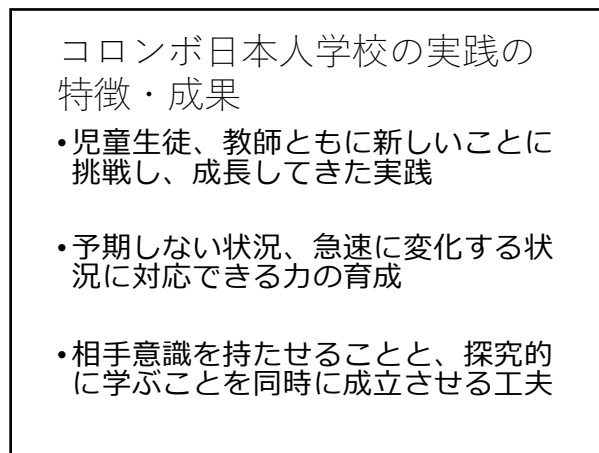


2 講評 (スライド)

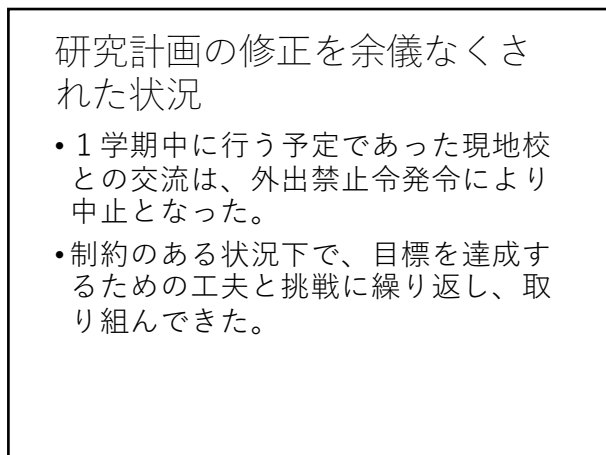




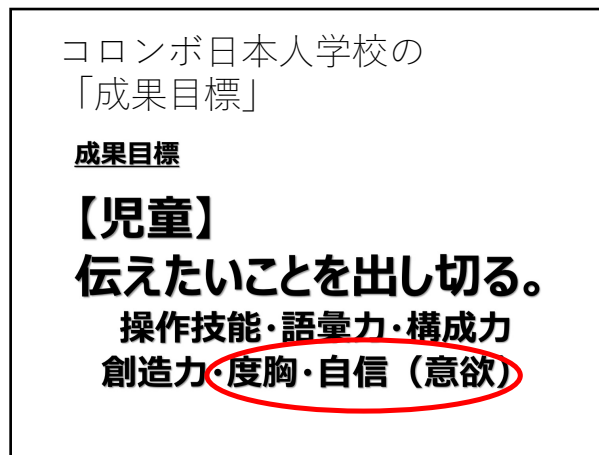
1



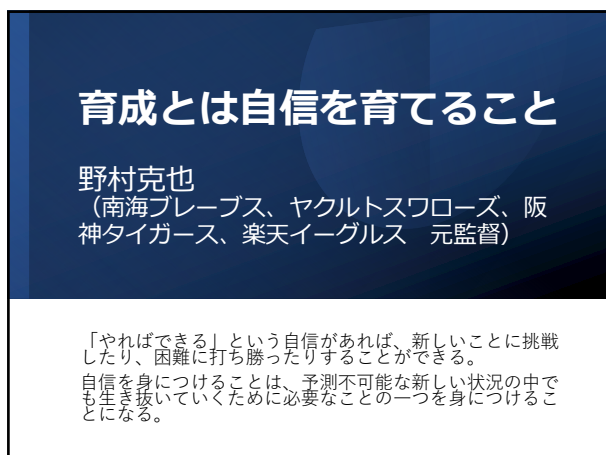
2



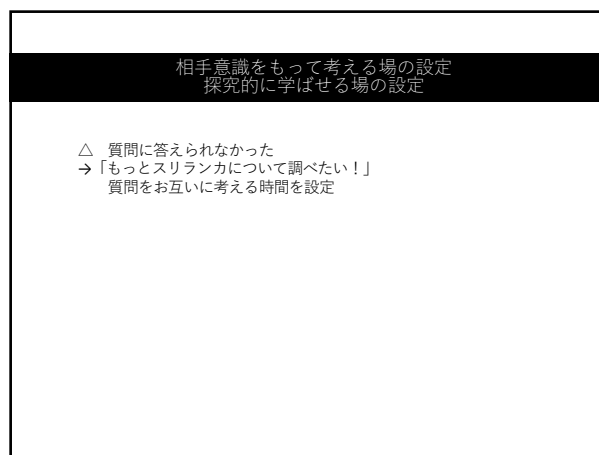
3



4



5



6

ここで行われた指導

- 自分達の足らなかった点に気づかせる指導
- 相手意識を持って考え、表現できるようにするための指導
- 問いを立て、探究的に学べるようにするための指導
- 「もっとスリランカについて調べたい！」と心に火をつける指導

7

ウィリアム・アーサー・ウォード
William Arthur Ward
(1921-1994)

普通の教師は話す。
The mediocre teacher tells.

良い教師はわかりやすく説明する。
The good teacher explains.

優れた教師は自らやってみせる。
The superior teacher demonstrates.

偉大な教師は児童生徒の心に火をつける。
The great teacher inspires.

8

たった一つを変えるだけ
クラスも変わる自由な「質問作り」

Beautiful Questions
-CLASSROOM-

More Beautiful Question
WARREN BERGER

思Q

シンクQを軸に、本質をつかむ思考法

たった1行の問いで、非凡な思考が

今、「質問作り」の実践が注目を浴びている

- A More Beautiful Question は、アメリカのビジネスマンに読まれた書籍
- それを翻訳した「Q思考」は、ビジネス書を多数発行しているアイゼンモッド社から発行されている。
- 質問を考える力は、子どもにとっても、大人にとっても重要

9

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考して問い続ける
見通しを持つ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先人の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる

独立行政法人教職開発機構
<http://www.nits.go.jp/jiseda/achievement/jre/pictogram.html>

10

深い学びを実現する授業をデザインするためのマトリックス(長谷川 2021)

	知識・理解	適用・応用・推論・論理的思考・判断・批判的検討	形成・問題解決・創造
	A 知っている・できる・わかる	B 使える	C 発見する・生み出す
1 個別・短絡的			
2 複合的	深い学び		
3 総合的			

11

高度な学習の仕方を経験的に学ばせる実践

- 横浜の小学校との交流以来、コロンボ日本人学校の児童生徒のみなさんのプレゼンのスキル、内容面ともに向上する様子を見てきました。
- この実践は、単なるプレゼンテーションスキルを身につけさせる実践ではなく、探究的に学ぶ、深く考えようという高度な学習の仕方を経験的に学ばせる実践であると言えます。
- 複数の視点から考える経験や探究的に学ぶ経験をしたことで、教科の学習も深く学べるようになることでしょう！

さらなる発展を期待します！！

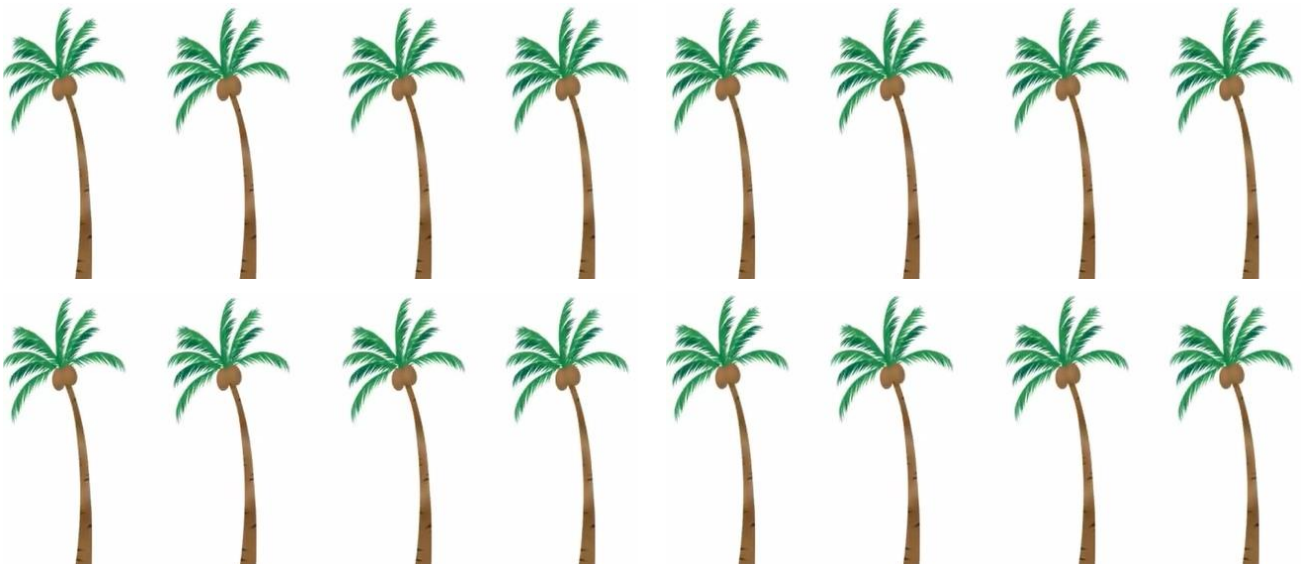
12



1人1台のiPadを活用した表現力の育成 ～Grow Up Time で思いを120%形に～



3 パネルディスカッション 及び講評の記録

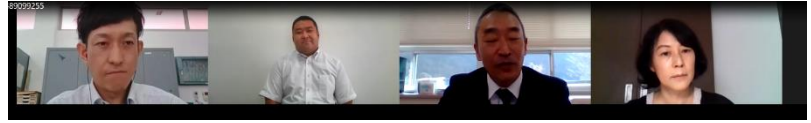


パネルディスカッションの記録

【パネルディスカッション】

コーディネーター

○柴田 博己(本校教諭 教務部 研修担当)



パネラー

○鈴木 勝久先生(岐阜県恵那市立上矢作中学校 主幹教諭)

○浜屋 裕子様(本校保護者)

○芳賀 弘善(本校教諭 教務部 研修担当)

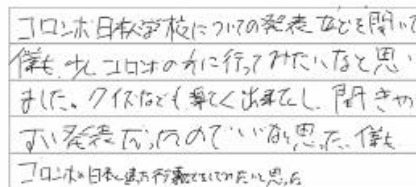
鈴木

- ・岐阜県恵那市上矢作地区の紹介(地図を使って説明)
- ・5校の中学校をまとめて「恵南コミュニティ」を作り、生徒間、教員間で教育の質の向上を目指し活動している。
- ・恵那市は1人1台端末がある。考えをまとめることに重点をおいている。
- ・5つの学校の中の3校を結んで意見交流を行っている。会社で契約しているソフトを導入し、遠隔授業をしている。
- ・上矢作を紹介するための一環としての、コロンボ日本人学校との交流を行った。子供たちからは、知らないことを知ることができたとの感想が多かった。コロンボ日本人学校の研究実践の成果が見られた。
- ・字ばかりではなく、伝えたいことを頭の中でデザインし、まとめをする。表現力と、伝えたいことを人に見せることは別のことと考えている。頭の中でたくさん考えても、伝えたいことを人に見せる時はシンプルにするように、中学生に求めている。

芳賀

・最後のところ(なんでもスライドに書きこむのではなく、見せる時にはシンプルに…)というところが心に残った。私たちが目指すところ。実践が始まった時、子供たちはスライドに文字をびっしり書いていた。やっている中で、見づらさに気づき、少しずつ洗練されていった印象がある。さらに洗練させ、シンプルにさせていきたい。

交流の様子



コロンボ日本人学校のプレゼンを聞いて、今まで全く知らなかったスリランカのことを知ることができました。元々、外国には興味があつたので今回の交流を楽しみにしていましたが、自分の想像を超えるくらいいろいろなことを知れたのでとても嬉しかったです。又、説明もわかりやすく、一つのことに対してとても詳しく掘り下げてくれたので、いろいろわかりました。

次の交流では私たちがプレゼンをする番なので、コロンボ日本人学校の人たちにわかって貰い、興味を持ってもらえるようにしたいです。

浜屋

- ・ICTを導入する前と後の変化を教えて欲しい。

鈴木

- ・これまでは、まとめる場合はノートに書くということ以外になかった。
- ・ノートに書こうとすると、文字がずらっと並ぶ状況だった。ICTが導入された後は、ただ文字を横に書いていく以外のまとめ方ができるようになり、思考の整理がしやすくなったと感じている。
- ・それぞれの頭の中はいろいろなデザインがある。キーワードをパズルのように組み合わせ、それをつなげて、表現していく。

浜屋

- ・学校ではiPadで調べものをする程度かと思っていたが、最近子供の話を聞くと、授業のスタイルそのものが変わってきていることがわかった。
- ・かつて自分が仕事をしていたころ（インターネットやパソコンが使われるようになり、仕事のスタイルが激変した）と同じように、ガラッと変わることが今起きている。
- ・（現代の子は）わからないことがあると何でもすぐにネットで調べて答えを見つける。想像力を働かせながら試行錯誤をする機会が減った。また、視力の低下が心配と感じる。
- ・表現力については、前の学校でもパソコンを使ったプレゼンをしていた。前の学校では5人グループで1台を利用していたが、日本人学校では一人一台を利用させてもらっている。
- ・先生からどんなアドバイスをもらったのかと子供に問うと、「何を伝えたいか考えよう。スライド上の言葉なるべく減らそう。話す相手のことを考え、わかりやすい話し方を意識したり、クイズや質問も入れたりしよう。話し方のメリハリもつけられるとよりよいです。」との指導があったと子供が言っていた。実際に見ていると、その指導を念頭に置きながら行う努力が見られた。
- ・子供の様子で印象に残っていることは、横浜との交流会の前に発表スライドを作り変えていることだった。これを不思議に思って「同じ話をするのに、どうして作り変えているのか。」と質問してみたら「交流する相手の学年によって、言葉をかえている」とのことだった。コロンボ日本人学校は学校の規模が小さいところが強み。全員が一人ずつ発表する機会がある。
- ・伝えたいことをしっかり伝えるという力は、生きていく中でとても重要である。
- ・ここ数か月で大きな成長が見られた。

芳賀

- ・情報を正しくキャッチすることがこれからの時代で大切。たどり着いた情報が正しいのかどうかの判断が大切だと考えている。
- ・粘り強さが無いことに関しては、教育全体の中で粘り強さを身につける場を見つけていく。バランスよくつけられるといい。
- ・子どもたちの素晴らしいところは、別のトピックになっても、これまでに学んだことを応用して生かしていくことができる。また、一人一人が技能を覚え、また友達同士の教え合いも生まれた。その結果、私たちがあまり口出しをしなくてもできるようになってきている。

鈴木

- ・日本人学校の先生たちの教えが子供たちの身についている。研究が生きている。
- ・学びのツールとして、iPad が活用されている。文房具と同じ扱いだと意識されている。
- ・授業で、自分もついつい「ググって」と言ってしまうことがある。情報の活用能力、「本当に正しいのかどうか」の部分で、試行錯誤させたい。
- ・学びの場に ICT が入ってきたが、自宅に持ち帰らせることについて、保護者はどう思っているのか率直に聞いてみたい。

浜屋

- ・日本人学校では、ルールがきちんと決まっている。今のところ、課題以外には使っていない。
- ・今後は ICT を正しく操作する力が重要となる。ICT の活用の仕方を学校で、みんなが正しい使い方について学べる機会を作っていってほしい。

鈴木

- ・ICT が活用できないまま子供を大人にさせるわけにはいかない。
- ・この先使えないとやっていけないので、そうしなくてはならない。

白濱(本校教諭)

- ・機械音痴で、iPad を触るのもほぼ初めて。スマホを使い始めたのも遅く、正直どうしようか不安だった。
- ・その都度先生方に聞きながらやってきたが、触って慣れていくのが一番。時間のある時に iPad に触れて機能を知っていくうちに、使い方がわかり、今では PowerPoint よりも Keynote の方が使いやすいと思うようになった。目的に合わせたアプリの使い分けもできるようになった。
- ・子供はすぐに操作を覚え、今後もいろいろな機能の操作法をどんどん獲得していくと思う。
- ・子供の可能性を広げていくためにも、教師が様々な機能や操作法を知り、サポートしていく必要がある。

質問

- ・児童生徒に対してプレゼンテーションの指導を行うにあたり、教師が気をつけていることは？

芳賀

- ・子供たちの思いが大事。「何が言いたいのか、何を伝えたいのか」を大切に(邪魔しないように)したい。
- ・発達段階に合わせた指導をすることが重要。はじめはプレゼンソフトの効果(エフェクト)がおもしろくてスライドを作る時、子供は効果を必要以上に使おうとする。その結果、派手で何が大切かわからなくなってしまう。その段階から1つ上の段階に進むと、余計なものを削り、シンプルに作るができるようになる。まだその段階にいない子供もいるので、早く上の段階に進んでほしいと思っている。

鈴木

- ・芳賀先生の言われた通り。それに加えてもう一つは、どうデザインするか。どうつなげるかが大切となる。
- ・文章で書きたくなるが、見せる画像に文章で説明を入れたりするとぼやけることもあるので、キーワードで端的にわかりやすくさせたい。

終わりに…

鈴木

- ・ICT が使えるようになり、ありえないことができるようになってきた。2年前には考えられなかったことであり、可能性を感じている。

浜屋

- ・ICTのことを教えていただき、子供がうらやましい。今後の学校の授業が楽しみ。

芳賀

- ・コロナで悪いこともあったが、可能性も見えてきた。普段の教育も進化してきている。
- ・我々も試されている。私たちが学び続けながら邁進していく。



講評の記録 【講評】 金城学院大学 教授 長谷川元洋先生

- ・同じチームに芳賀先生がいるので、春から実践を見ている。鈴木先生も同じチームである。
- ・児童生徒、教師ともに新しいことに挑戦性、成長してきた実践だった。
- ・予期しない状況、急速に変化する状況に対応できる力の育成が図られた。
- ・相手意識を持たせることと、探求的に学ぶことを同時に成立させる工夫があった。
- ・現地校交流ができない中で、目標を達成するために頑張った。
- ・度胸・自信→少人数だからより必要だと感じたのではないか。しかし、大人数の学校でも同じこと。
- ・表彰を受けた児童だけでなく、他の児童も同じだったのではないか。全員の自信になった。
- ・聞いた話では、日本人学校では、初めて入賞したのでは？他の日本人学校に対しても自信になった。
- ・「育成とは自信を持たせること（野村克也）」自信があれば困難な状況にも打ち勝つことができる。
- ・相手意識をもって考える場と探求的に学ばせる場が設定されていた。完成度を高めたものにしようと、教師も子供に対して手厚い指導をしてしまいがちだが、子供自身に気付かせ、考えさせ、ブラッシュアップ。スリランカについて知りたいという気持ちを引き出し、質問を考える時間を設定。「偉大な教師は、やる気に火をつける（W.A.Ward）」これをコロンボ日本人学校の先生は実践している。
- ・質問作りの活動が今、注目を浴びている。もともとは企業研修で使われていた手法が教育現場に。子供から大人まで、質問を考える力が重要。コロンボ日本人学校はこれを実践。
- ・ピクトグラムにある深い学び「思考して問い続ける」が行われていた。学んだ知識を組み合わせたり統合したりすることができている。深い学びに該当する学習活動がデザインされていた。
- ・高度な学習の仕方を経験的に学ばせる実践をしたコロンボ日本人学校。この経験は、教科の学習にも活かされる。今後もさらなる発展が期待できる。



1人1台のiPadを活用した表現力の育成 ～Grow Up Time で思いを120%形に～



4 事後アンケート



研究報告会の記録及び参加者事後アンケートの回答の集計

● 参加者について

参加者 21名

内訳 教育関係者 10名 保護者 4名 一般 2名 本校教員 5名

● 事後アンケートの回答について（抜粋）

① 研究報告の内容（今年度の本校の教育研究について）について、ご意見やご感想、ご質問等あればご記入ください。

【慣れる場や発表する場の設定】

- ・発表する必然性を設定することの大切さを、今回の研究報告で改めて感じました。特に、他校に伝えるという経験は、自分たちの学びを客観的に見つめ直すことができるのだと、報告の中にも述べられていた子供たちの様子などから感じました。（教育関係者）
- ・ICT機器の操作に、まず教師も子供も慣れる期間を設けていることで、その後の活動において、応用の幅が広がっているように感じました。（教育関係者）

【試行錯誤の大切さ】

- ・研究報告をズーム配信していただいたので、遠く離れた地から、コロンボ日本人学校の先進的な教育を知ることが出来たととてもありがたいです。完成されたスライドを求めてしまう話を聞き、自分にも思い当たるところがあるなど思いました。コロンボの子どもたちは、悔しさをバネに、さらに良いスライドを作ろうとする姿が素敵ですね。子どもたちに自ら気づかせる取り組みの重要性を改めて感じました。（教育関係者）
- ・子どもたちの表現力を向上させるためには、表現の場を与えて、トライアンドエラーを繰り返すことが大切だと思いました。タブレット端末を活用し先生方、子どもたちがやり方を模索しながら努力する姿勢に感銘を受けました。（教育関係者）

【ICTの可能性】

- ・私たち以上に、情報機器に対する順応性が早い子供たちにとっては、ICT機器は可能性の幅を大きく広げるものだと思います。確かに、情報モラルについては十分な指導が必要ですが、可能な限り子供たちの自由な発想のもと、ICT機器を使用させていくべきなのだと、コロンボ日本人学校の先生方、子供たちから学ばせていただきました。（教育関係者）
- ・異学年の子ども達に、また子どもの出入りの多い環境で一貫してとり組むことが難しかったことと思いますが、それでも見通しをもった指導の大切さ、ICTを使った学習の可能性の大きさを感じました。（教育関係者）

② パネルディスカッションの内容について、ご意見やご感想、ご質問等あればご記入ください。

【教育の現状】

- ・改めて、ICT教育が大きく求められ、教育自体が大きく変わろうとしていることを理解しました。（一般）

【保護者を含むそれぞれ別々の立場からの意見の交流】

- ・先生、保護者、外部の先生と様々な立場からの意見が聞けてとても勉強になりました。（教育関係者）
- ・保護者の方に参加いただいていることで、通常のセミナー等と異なる視点でのお話も伺うことができ、大変参考になりました。（教育関係者）
- ・日本の先生や浜屋さんなども繋がれて、色々な意見を聞くことができ良かった。（保護者）
- ・保護者の方と話ができただことはとても有意義でした。こういう会は教員だけの形が多いので、保護者参加は新鮮でした。（教育関係者）
- ・保護者の方の意見が聞けたことは、とても参考になりました。子供たちの家庭での様子において、利点だけでなく、不安や心配など、確かにそうだと思う点があくつもありました。ICT機器が便利である分、より丁寧な説明をして行かなければ、学校と家庭との連携は難しいのだと思いました。（教育関係者）
- ・保護者の方が発言する研修会を初めて見ました。家での学習の様子や、家庭との関わりを知ることが出来て、非常に面白いと感じました。（教育関係者）

【上矢作中 鈴木先生の説明について】

- ・中学の社会の授業であんな風に見えること、頭の中の整理の仕方のお話も興味深かったです。（教育関係者）
- ・鈴木先生のバワボ資料が分かりやすかったです。特に生徒の思考のウェビングマップの分析が興味深かったです。（本校教員）

【ICTの活用に関わって】

- ・タブレットがあたりまえのツールとして使えるように色々な意見をぶつけることが大事だと思いました。（教育関係者）

【目の健康について】

- ・目の健康への対処は自分も気になっているところだったので、やはり家庭でも心配される場所なんだと改めて感じました。（教育関係者）
- ・良い事についての情報共有は多くありましたが、悪い影響（目の影響、その他依存など）についてもう少し知りたいと思いました。私自身でも調べてみたいと思います。（保護者）

【協議内容の充実】

- ・オーディエンスからの質問や感想が少なかったですが、パネラー同士のやりとりを聞いているだけでも、何かを感じ、勉強になる内容だったと自負しています。（本校教員）

③ ①②でご記入いただいたことに加え、「ICTの活用」や「表現力」について考えていることや、もっと知りたいこと等あればご記入ください。

- ・子供たちが元気で、一生懸命に、楽しそうに表現している姿を見て、いつも素晴らしいと感動しています。これからも子供たちの成長を楽しみにしています。(一般)
- ・最近考えていることは、「情報活用能力」「情報活用のためにリテラシー」と共に、「検索力」が必要な力として身につけさせなければならないと感じています。要は、検索するために必要なキーワードをいかに早く見つけるかという力です。これが身につけられれば、資料をまとめる時間が短くなり、より表現する方(どう伝えたらいいのか)に時間を割くことができます。(教育関係者)
- ・今年度性教育の中で、ロイノートを使ってみたのですが、使い勝手が良い反面、文字の羅列になってしまう子どもが非常に多いという失敗をしてしまったところでした。また機会があれば見やすいデザインにできるようアプローチしたいなと思います。(教育関係者)
- ・ICTの活用が導入されたことで、教育の方法が大きく変わったように思います。どうしても、これまで培ってきた指導方法が良い、と決めてしまいがちですが、まずは最新の考え方を柔軟に受け入れ、今を生きる子供たちに最適な方法を見極めた上で、これまでの経験を照らし合わせていかなければいけないのだと痛感しています。(教育関係者)
- ・ICTについては使ってみて初めてわかることがたくさんあるんだと思います。ソフトもいろんなものがあり、またどんどん開発されていくと思うので、教員が大変だなあ…と思います。今後のことを考えると、今回のような発表をできるようにしていくことはとても大事だと思います。ICTの活用は個人プレイが多くなりがちだと思いますが、個人だけでなく、チームで取り組むということも大事にされていていいなと思いました。(教育関係者)
- ・ICTをもっと有効に活用するにはどんな機能が使えるか日々模索しています。オンライン授業での実践を知りたいです。実際、子どもの表現力がどのように伸びたのか変容も見てみたかったです。(教育関係者)
- ・今年度一年間、「表現力を高めること」を目標に取り組んできましたが、表現力を高めるのは簡単ではないと改めて感じました。しかし、教師側が計画的かつ児童生徒が自ら取り組むように仕込むことで、表現力が高められるという糸口をつかむことができたと感じました。これから児童生徒の表現力をより高めていくことは、更に難しくなっていくと思います。本研究の成果と課題を洗い出し、更なる追究をしていきたいです。(本校教員)
- ・iPadは文房具という合言葉を忘れなければ、iPadに頼りすぎることはなくなると思いました。iPadはあくまでツールであり、iPadが使えることが最終的な目標になってはいけないということを改めて感じました。(本校教員)
- ・ICTは表現力を身につける上での手段の一つ。最終的には子供たちに道具がなくても他者へ自分の考えを堂々と伝える力を身につけさせることだということを、常に念頭に置いて指導していくことが大切。(本校教員)

④ その他、本校の教育研究ならびに本日の研究報告会について、ご意見や感想、ご質問等あればご記入ください。

- ・一人一人が輝ける教育をされていると思います。ありがとうございます。本日のような報告機会を是非とも継続して頂きますと幸いです。(一般)
- ・日本人学校の研究発表を初めて見せていただきました。オンラインでの活動が広まってきているので、子どもの交流活動だけでなく、教員研修もこのような形で広く普及するのいいなと思いました。(教育関係者)
- ・私も以前、日本人学校に赴任していたのですが、ICTの活用によって、こんなにも世界が広がるのかと、とても羨ましく思いました。日本の学校でも活用できるアイデアを、今回の報告会でたくさん学ばせていただいたので、ぜひ参考にさせていただければと思います。(教育関係者)
- ・コロナに負けない新しい挑戦を続けるコロナ日本人学校さんの取り組みに感動し、私も勤務校でもっと頑張ろうという気持ちになりました。(教育関係者)
- ・今後研究を進める上で、数年先を見据えて研究を推進することが大切。(本校教員)
- ・長谷川先生の講演時間が15分間と長くはなかったですが、インパクトに残りました。限られた時間の中で、伝えたいことを伝える長谷川先生の姿は見習うべきだと感じました。特に「よく話す教師は普通の教師、子供に気付かせる教師はよい教師、子供のやる気に火をつける教師は素晴らしい教師」という言葉に感銘しました。次年度も本研究が深まるように頑張っていこうという気持ちを新たにしました。(本校教員)